

Central Daily Market Report

2018年7月31日(火)

セントラル短資株式会社 総合企画部

●資金需給

単位：億円	2018年7月31日	2018年8月1日	2018年8月2日
	需給速報	需給予想	当社予想
銀行券	▲ 100	500	0
財政	19,800	▲ 28,100	▲ 52,000
資金過不足	19,700	▲ 27,600	▲ 52,000
金融調節	スタート	エンド	スタート
貸出			
全店共通			
国債買現			
国債売現			
国庫短期証買入	2,500		
国債買入	16,000		
CP等買入	2,000	▲ 1,400	
貸出支援基金(成)			
貸出支援基金(貸)			
被災地支援			
社債等買入			
E T F 買入			
国債補充供給	▲ 13,800	600	13,800
当預増減	25,600	▲ 13,800	▲ 52,000
当座預金残高	3,937,100	3,923,300	3,871,300
準備預金残高	3,444,100		
積み終了先	3,443,200		
超過準備	3,443,200		
非準備預金先	493,000		
積み期間(7/16~8/15)の所要準備額			3,127,300
準備預金進捗率	実績	99.90%	日数
			51.61%

●2018年7月31日の市場動向

<インターバンク市場>

本日の無担O/N物は邦銀・証券業態を中心に▲0.086~▲0.050%近辺の調達で始まった。月末要因によりビッド件数が少なく、オファーが出し残る軟調な展開となった。一巡後は▲0.085%程度の出合いが散見され、今月の取引を終えた。ターム物は、ショートタームを中心に出会いが見られた。

<レポ市場>

GC T+0(7/31-8/1)は、▲0.24~▲0.18%程度の出合い。T/N(8/1-8/2)は、▲0.18~▲0.11%程度での出合い。SCはロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。10Y339~351、5Y130~136、20Y165などにビッドの出入りが目立った。

<短国市場>

現先レートT/Nは低水準で推移した。アウトライト市場では、様子見姿勢が強く、1Y物が▲0.16%で出合った程度であった。

<CP市場>

現先レートS/Nは横ばい圏で推移。CP発行市場は、償還700億円弱に対して、発行1,000億円程度となった。案件は少なく、大型発行はノンバンクから見られた程度であった。発行レートは概ね横ばい圏で推移した。

●短期金融市場関連指標

2018/7/31	無担(速報)			有担(速報)			短国	東京レポレート	JGB新発10年債		日経平均株価		ドル/円		
	単位：%	最低	最高	平均	最低	最高	平均	売買参考統計値	平均値	直近値	前日比	15時時点	前日比	為替(9時)	為替(17時)
O/N	▲ 0.086	0.001	▲ 0.065					-	▲ 0.201	0.046	▲ 0.054	22,553.72	8.88	110.99-00	111.39-41
T/N			0.000					-	▲ 0.180						
S/N								-	-						
1W	▲ 0.060	▲ 0.020	▲ 0.028					-	▲ 0.157						
2W	▲ 0.065	▲ 0.055	▲ 0.064					-	▲ 0.154						
3W			▲ 0.010					-	▲ 0.145						
1M								-	▲ 0.143						
3M								▲ 0.191	▲ 0.145						
6M								▲ 0.138	▲ 0.150						
1Y								▲ 0.156	▲ 0.159						
										日付	7/24	7/25	7/26	7/27	7/30
										日銀当預残	3,886,500	3,892,100	3,897,500	3,897,900	3,911,500
										準備預金残	3,398,100	3,403,400	3,404,300	3,411,200	3,423,100
										マネタリーベース	4,978,300	4,983,900	4,990,600	4,991,700	5,005,200
										無担O/N加重平均	▲0.070%	▲0.069%	▲0.070%	▲0.071%	▲0.068%
										コール市場残高	87,790	79,036	80,590	82,102	75,678
										うち無担	68,750	63,122	66,281	68,254	63,396
										うちO/N	40,495	34,627	37,886	40,829	36,071
										うち有担	19,040	15,914	14,309	13,848	12,282

●オペ結果

種類	オファー額(億円・百万ドル)	スタート日	エンド日	貸付利率	応札総額(億円・百万ドル)	落札総額(億円・百万ドル)	按分レート・利回較差・価格較差	全取レート・利回較差・価格較差	平均落札レート・利回較差・価格較差	按分比率
国債補充供給(国債売現先)・即日(午前オファー分)	78,818	2018/7/31	2018/8/1		14,246	13,589		▲0.600	▲4.761	
国債補充供給(国債売現先)・即日(午後オファー分)	10,000	2018/7/31	2018/8/1		8	8		▲0.600	▲0.600	
米ドル資金供給		2018/8/2	2018/8/9	2.42	0	0				

●2018年8月1日の予定

*米国FOMC(2日目)	*米国6月の建設支出	*米国7月のISM製造業景況指数
--------------	------------	------------------

●日銀政策決定会合・結果

●強力な金融緩和と継続のための枠組み強化を決定。

1. 「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の持続性を強化する措置を決定。

(1) 政策金利のフォワードガイダンス

(2) 長短金利操作(イールドカーブ・コントロール)(賛成7反対2)

短期金利：日本銀行当座預金のうち政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用する。
 長期金利：10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、長期国債の買入れを行う。その際、金利は、経済・物価情勢等に応じて上下にある程度変動しうるものとし、買入れ額については、保有残高の増加額年間約80兆円をめどとして、弾力的な買入れを実施する。

(3) 資産買入れ方針(全員一致)(長期国債以外の資産の買入れについて)

①ETFおよびJ-REITについて、保有残高が、それぞれ年間約6兆円、年間約900億円に相当するペースで増加するよう買入れを行う。その際、資産価格のプレミアムへの働きかけを適切に行う観点から、市場の状況に応じて、買入れ額は上下に変動しうるものとする。

②CP等、社債等について、それぞれ約2.2兆円、約3.2兆円の残高を維持する。

2. 以下の実務的な対応を行う。

(1) 政策金利残高の見直し
 日本銀行当座預金のうち、マイナス金利が適用される政策金利残高(金融機関間で裁定取引が行われたと仮定した金額)を、長短金利操作の実現に支障がない範囲で、現在の水準(平均して10兆円程度)から減少させる。

(2) ETFの銘柄別の買入れ額の見直し
 ETFの銘柄別の買入れ額を見直し、TOPIXに連動するETFの買入れ額を拡大する。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入